

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-1	中原区子育て支援推進事業	継続	平成15年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	中原区子育て支援推進実行委員会		対象者	区内在住の0歳から3歳までの乳幼児と保護者	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容		
目的及び内容	区内に住む乳幼児を育てている保護者が、周囲から孤立して育児不安に陥ったり虐待につながることはないよう、地域ぐるみで子育て中の保護者をサポートしていくために、区の社協、民協の地域住民が主体となり、区内7地区で14ヶ所の「子育てサロン」を開催している。				
予算額	2,000,000(円)	決算額	1,977,479(円)	不用額	22,521(円)
不用の理由					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		中原区の社協・民協が主体となって区内7地区・14ヶ所で毎月1回子育てサロンを開催している。 子育てサロンの開催の他、各地区での見守り活動や中学生などの子育てを支援する人材の育成等も行っている。 子育てサロン5周年記念誌「子育てはみんなの“ちから”で！」を発刊し、5周年の活動のまとめをおこない、今後の活動の方向性などを示したものとなった。		
	5周年記念誌		実施時期 (開催日/回数等)	月1回/サロン 延べ151回	参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
転入者の多い中原区では、乳幼児を持つ親が周囲に知り合いがないため不安を抱えていることが多く、子育て中の親同士や地域の人々と交流ができる「子育てサロン」に対するニーズはたいへん高い。「子育てサロン」に参加することにより、子育てに関する情報交換ができ、同じ年頃の子どもを持つ親同士のつながりができることにより、孤立化による育児に対する不安が軽減されている。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	7地区で行っている子育てサロンは定着しており、利用者数も増加を続けている。 地域のサロンに対するニーズは高いものであり、社協・民協以外にボランティアを中心に始まった子育てサロンへの支援も制度化する。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-2	こころ育ての子育て支援推進事業	継続	平成14年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こころ育ての子育て支援推進実行委員会		対象者	妊婦及び乳幼児とその親		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	子育て期における「赤ちゃんを抱っこすることの大切さ」を広く伝え、子どもの健全な発育を支援するための講演会を行う。また、妊婦や日頃生の音楽にふれる機会の少ない乳幼児を持つ親が、子どもと一緒に美しい音楽にふれ、気持ちを豊かにして育児にのぞめるよう「マタニティー&ファミリーコンサート」を行う。					
予算額	900,000(円)	決算額	884,374円)	不用額	15,626(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		平成19年7月2日、12月17日にエポックなかはらにおいて「マタニティー&ファミリーコンサート」を開催した。また、9月22日に子ども未来フェスタのイベントの一環として、中原市民館において、池川明氏を招き、講演会「赤ちゃんからのメッセージ」を開催した。			
	マタニティー&ファミリーコンサート		実施時期 (開催日/回数等)	年2回(マタニティー&ファミリーコンサート)、年1回(講演会)	参加人数等	マタニティーコンサート 第1回約770人 第2回約900人 講演会約150人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>コンサートは2回合わせて約1500人の参加があり、本事業の目的である「赤ちゃんを抱っこすることの大切さ」を広く区民に普及啓発する機会となった。</p> <p>講演会は、参加者アンケートで、「目と目を合わせた真心の子育てをしていきたいと思う。」「とても良いお話でした。子どもとの向き合い方を見直したいと思います。」等の感想が寄せられ、親子関係を見直す機会の提供となり、より良い親子関係を形成する一助となったといえる。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成17年度から講演会とコンサートを同時開催で実施し、集客効果を挙げてきたところではあるが、参加者からは「夫に聞かせたかった。」との要望もあり、父親や就労している母親が参加できるような開催日時等の設定を考える必要がある。又、20年度からは本事業は子育てネットワーク(なかはら子ネット)の活動として位置づけることになった。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-3	子育て・子ども支援ネットワーク推進事業	継続	平成18年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	子育てネットワーク、子ども支援ネットワーク	対象者	区内の子どもと保護者、区内の子どもに関わる機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業				
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容							
目的及び内容	<p>地域全体で子どもが抱えている課題を共有し、課題解決に向けた支援を行うため、就学前の子育てネットワーク、就学児以上の子ども支援ネットワークをそれぞれ年4回開催した。その中で、各関係機関・団体等の情報交換を繰り返し行うことで、お互いの活動の特徴、役割などの理解を深め、子育て支援の連携強化を図った。お互いが知りえた情報をタイムリーに発信し、区民に対してきめ細かい情報提供を行う。</p> <p>区内の子どもを支援する団体や子育てに関わる団体・区民同士が交流し、広く子どもや子育てに対する情報提供や啓発を行うイベントとして「なかはら子ども未来フェスタ」を開催する。</p>								
予算額	703,000(円) (変更契約後 1,261,600円)	決算額	1,235,895(円)	不用額	18,360(円)				
不用の理由									
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>子ネット通信・子ども情報なかはら</p>	<p>子ども支援・子育てネットワークについては、それぞれ年6回、4回の会議を実施し、情報交換や子ども支援に向けての検討を行った。</p> <p>その中で、地域に密着した行事等の情報をこまめに提供するための「子ネット通信」を隔月発行と、就学児以上の「子ども情報なかはら」を発行した。</p> <p>子育てネットワーク参加団体 23 団体 「子ネット通信」の発行 年6回発行(編集会議12回) 子ども支援ネットワーク 参加団体 27 団体 「子ども情報なかはら」の発行</p> <table border="1"> <tr> <td>実施時期 (開催日/回数等)</td> <td></td> <td>参加 人数等</td> <td></td> </tr> </table>				実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等	
実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等							

2 事業評価

<p>評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)</p> <p>これまで、地域毎に活動していた自主グループ等と行政機関、公共的活動を行う団体がネットワークとして集まり、皆で地域の子どもを支援していくという共通認識の下に各関係機関・団体の活動状況の情報交流を行い、連携が深められた。また、「子ども未来フェスタ」を開催することでネットワーク参加者同士の交流をはかり、地域に向けて活動内容をPRすることができ、今後のネットワーク活動をしていく上で一定の事業目的を達成することができた。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	<p>地域全体で子ども支援に取り組むため、さらに多くの関係機関や団体に参加を呼びかける必要がある。また、ネットワークの中で参加団体の特性を生かした支援を検討する。未来フェスタについても広く参加を呼びかけるとともに、区民に対してのPRをさまざまな手段で行っていく必要がある。</p>

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 4	子育て情報発信事業	新規	18年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こども支援室		対象者	区民		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()		関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	子育て・子ども支援のホームページの充実を図ることにより、子育て・子ども支援に関する情報を広く分かりやすく提供する。					
予算額	252,000(円)	決算額	0(円)	不用額	252,000(円)	
不用の理由	今年度は軽易な更新のみとし、作業を所管課で行ったため。					
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】		子育てカレンダーなど、最新の情報がゆきとどくよう更新した。又、子ども支援ネットワークで作成した「こども情報なかはら」の内容もホームページにのせた。			
	 (子ども情報ホームページ)		実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等	

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
平成18年度新設した子育て情報ホームページの更新作業を業者委託することなく所管課で行ったため、予算が不要となった。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	平成19年度は子育てホームページの軽易な更新のみとしたので所管課で行ったが、20年度からは学校・地域連携担当がこども支援室へ組織され、学齢期の子どもとその保護者に向けたホームページ等、情報発信事業をさらに拡充していく。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 5	なかはら子ども未来フェスタ開催事業	継続	平成18年	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	なかはら子ども未来フェスタ実行委員会	対象者	区内の子どもと保護者、区内の子どもに関わる機関、団体		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	区内の子どもを支援する団体や子育てに関わる団体・区民同士が交流し、広く子どもや子育てに対する情報提供や啓発を行うイベントとして「なかはら子ども未来フェスタ」を開催する。				
予算額	450,000(円)	決算額	390,631(円)	不用額	59,369(円)
不用の理由	メインとなる講演会を中原区子育て支援推進実行委員会5周年事業と共催し、講師料を中原区子育て支援推進実行委員会から支出したため。				
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		実行委員会を8回開催し、実行委員、参加ボランティア144名で開催をし、1,500名の来場者との交流を行った。		
	フェスタの様子		実施時期 (開催日/回数等)	H19.9.22	参加 人数等 1,500人

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
子育てネットワーク、こども支援ネットワークが実行委員会の中心的メンバーとなり、「子ども未来フェスタ」を開催することでネットワーク参加者同士の交流がはかれると同時に、地域に向けて活動内容をPRすることができた。今後のネットワーク活動を推進していく上で一定の事業目的を達成することができた。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	地域全体で子ども支援に取り組むため、さらに多くの関係機関や団体に参加を呼びかける必要がある。また、ネットワークの中で参加団体の特性を生かした支援を検討する。子ども未来フェスタについても広く参加を呼びかけるとともに、区民に対してのPRをさまざまな手段で行っていく必要がある。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4-6	こども情報コーナー設置事業	新規	19年度	こども支援室

1 事業概要

事業実施主体	こども支援室	対象者	区民	当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容		
目的及び内容	庁内の別館、1階、2階にあるこどもに関する情報を、こども情報コーナーとして集約することで、行政の情報や、関係団体の情報を一元化し利用者の利便性をはかる。			
予算額	661,000(円)	決算額	580,335(円)	不用額 80,665(円)
不用の理由	閲覧コーナーの整備を予定していたが、環境が整わず今年度は見送ったため。			
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 	区役所2階の授乳室前のスペースに「こども情報コーナー」を設置した。		
	(こども情報コーナー展示の様子)	実施時期 (開催日/回数等)		参加 人数等

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
様々なところに、種々雑多に置かれたパンフレット、チラシを1箇所におくことで区民に分かりやすくなった。しかし、区民が更に利用しやすいよう、取り扱う情報の内容や量、分類の方法などに改善をしていく必要がある。また、利用者がゆっくりと閲覧内容を確認できるような空間づくりも必要である。

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	今年度は、情報を1箇所にする事で、利便性の改善をはかった。 しかし、子どもを連れての利用を考えた時に、安心してゆっくり情報収集できる環境づくりは、今後必要な整備と思われる。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 7	ふれあいなかはら福祉まつり	継続	平成11年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	ふれあいなかはら福祉まつり実行委員会	対象者	中原区民（限定なし）		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他（ ）	関連事業局 ・事業内容			
目的及び内容	誰もが生き生きと暮らせる地域福祉社会を目指し、区民参加型イベントを実施し、各種福祉活動の展示・発表や参加型イベントを通じ、福祉に関して広く区民への理解を深める機会を創出する。あわせて参加団体間の交流を図ることで、連携した福祉活動の推進への一助とする。 内容としては、福祉団体の活動発表や出店、各種展示、福祉に関する来場者参加型イベントを実施する。				
予算額	850,000(円)	決算額	850,000(円)	不用額	(円)
不用の理由					
結果・成果	<p>【事業実施状況・成果物などの写真等】</p>  <p>イベント会場(区役所正面玄関)の様子</p>	<p>福祉団体活動発表、福祉用具・車両の展示に加えて、「高齢者・障害者疑似体験」、「ミニ手話教室」、「福祉健康体験ウォークラリー」等の来場者参加型イベントを実施した。また参加団体間限定の「大名刺交換大会」を実施し、団体間の交流を深めることができた。 ウォークラリーでは共同開催の「なかはら健康まつり」もあわせたコース設定としたので、参加者の回遊性を高めることが出来た。</p>			
		実施時期 (開催日/回数等)	平成19年11月 17日	参加 人数等	約3,000人

2 事業評価

評価の結果と理由（緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること）
<p>今回は「なかはら健康まつり」と共同開催し、名称も「なかはら福祉健康まつり」として開催した。これにより、来場者が「福祉」、「健康」それぞれのイベントを回遊し、それぞれの理解を深めるよい機会となった。またウォークラリーの共同実施により、その相乗効果を生む結果となった。目的とした区民の福祉への理解を深めることについて、一定の成果があげられた。</p> <p>また「大名刺交換大会」を実施したことで、健康・福祉の各参加団体間の交流を深めることが出来た。地域における福祉活動の担い手の掘り起こしに、健康団体との交流、区民へのPR活動は必要不可欠であり、本事業は今後も必要性・重要性の高い事業である。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	「なかはら健康まつり」と共同開催したことにより、福祉と健康の各団体が交流を図り、地域福祉のネットワークの拡大につながった。平成20年度からは両事業を一本化して、参加者の拡大やイベントの充実を図っていく。

区民会議からの主な意見

--

平成19年度 中原区協働推進事業 事業評価書

川崎市中原区役所

番号	事業名	新規・継続	開始年度	所管課
4 - 8	なかはら健康まつり	継続	平成18年度	地域保健福祉課

1 事業概要

事業実施主体	なかはら健康まつり実行委員会		対象者	中原区民及び健康に関心のある人		当初予定事業 緊急対応事業
事業形態	直営 一部委託 全部委託 その他()	関連事業局 ・事業内容	なし			
目的及び内容	区民参加型の健康づくりイベントを通し、区民の健康に対する知識の高揚を図ることを目的とする。実施内容としては各種健康相談、栄養相談、歯科相談、禁煙相談、足指力測定、健康体操等。					
予算額	350,000(円)	決算額	349,833(円)	不用額	167(円)	
不用の理由						
結果・成果	【事業実施状況・成果物などの写真等】 		食生活改善推進員による展示、試食コーナーや運動普及推進員による体操(右写真)、展示、医師・歯科医師・保健師・栄養士等による各種健康相談、健康測定を実施。 各イベントをウォークラリー(景品付)でつないだ。 また、老後の生活について講演会を実施した。			
	運動普及推進員による体操の様子		実施時期 (開催日/回数等)	平成19年11月	参加 人数等	約3,000人 (福祉まつり含む)

2 事業評価

評価の結果と理由(緊急対応事業の場合は緊急性・重要性についても触れること)
<p>数年前から実施していた「なかはら健康まつり」を平成18年から区協働推進事業として規模を拡大。 平成19年は同時開催していた「ふれあいなかはら福祉まつり」(以下福祉まつり)と共同開催し、名称も「なかはら福祉健康まつり」となった。 参加者数は年々増え続けており、社会での健康意識の高まりの中で、イベントを通じた健康教育、健康相談として一定の成果をあげるとともに、区内の健康づくり関係団体の活動の発表の場として大きな役割を果たしている。国で展開している「食育」や、特定健診の中で重要性を増している「保健指導」をはじめとして、今後も健康づくり普及・啓発の場として本事業は有効性、重要性の高い事業である。</p>

3 事業の方向性

次年度以降の事業計画	現在までの成果・具体的な展開方針
見直し・改善の上継続 終了を見越して継続する 現状どおり 終了する	「福祉まつり」と共同開催したことにより福祉と健康の各団体が交流を図り、地域福祉のネットワークの拡大にもつながった。平成20年度以降両事業一本化して、参加者の拡大やイベントの一層の充実を図っていく。

区民会議からの主な意見

--